

## ■英語の諺 101～200

101

As you sow, so shall you reap.

日本語訳

あなたが種を蒔くので、あなたが刈るだろう。

日本の常套句として「蒔いた種は刈らねばならない」というものがあります。標記の意訳かも知れません。

収穫という利益があるので、悪いことではないように思われますが、概ね、嬉しくないことであり、日本の諺、「自業自得」の意味で使われます。

あまりピンときませんが「As you make

your bed, you must lie in it.」(あなたがベッドを設えたので、あなたが横にならねばならない) も同じ意味の諺のようです。

102

Diamond cut diamond.

日本語訳

ダイヤモンドがダイヤモンドを切る。

自然界で最も硬い物資であるダイヤモンドは、実際にダイヤモンドにより加工されます。

そういう意味では、標記の諺は、単純な事実を述べているにすぎません。

比喩としては、トップクラスのスポーツチーム同士、あるいは最強の国同士の激突の場合に使われます。最近の言い方では、「頂上決戦」でしょうか。因みに、「Diamond cuts diamond.」も存在し、文法的はこちらが正しいかも知れません。

103

He that would go to sea for pleasure,  
would go to hell for a pastime.

日本語訳

遊びで海に出る者は、暇つぶしで地獄に行く。

日本の諺「板子一枚、下は地獄」に対

応します。

生命は海で誕生し、人類が地上に住むようになっても、貝塚遺跡からも明かなように、海の恵みで人類は生きながらえてきました。

有史後は、漁師という職業が成立し、近年は漁業という産業になりました。

この諺は、漁師たちが一般市民に対し、「海をなめるな」という思いから生まれたものと考えられます。

104

Hope deferred makes the heart sick.

日本語訳

かなわない願いは心を病にする。

「パンドラの箱」から最後に出てきた「希望」が、人類を救うというポジティブな捉え方と、「希望」があるため、いつまでも努力し続けなければならない」というネガティブな考え方と、両極の考えかあります。

この諺でも、長い間実現しない「希望」は却って害を及ぼすと考えています。

この諺で注意を要する点は、「defer」は動詞で「延期する」、その形容詞「deferred」は「遅延している」という意味であり、「differ」（と異なる）とは違うことです。

105

A house divided against itself  
cannot stand.

日本語訳

それ自身が分断された家は建って  
られない。

「家庭内での反目や争いがある家庭は、  
存続していかない」という意味です。

つまり、実際の建物ではなく、その中  
で暮らす家族がまとまっていないと、  
うまくいかないということです。

信仰が社会も家庭も支えているヨーロ  
ッパでは、同じ意味の「The family  
that prays together stays together.」

（一緒に祈る家族は一緒に留まる。）が  
あります。

Idle folk have the least leisure.

日本語訳

怠惰な人々が最も少ない余暇を持っている。

怠け者が自分の余暇の時間がもっとも少ないということです。

やるべきことを、効率的にこなすことが自分の時間を作り出す秘訣です。

「folk」を「people」に代えた「Idle people have the least leisure.」も使われています。

「idle」の対極の「忙しい人」を主語にした「Busiest men find the most time.」（最も忙しい人が最も時間を見つける。）という諺もあります。

107

Diligence is the mother of good luck.

日本語訳

勤勉は幸運の母である。

勤勉であることと幸運であることは、  
一見因果関係がないように思えます。

しかし、勤勉であることがどのような  
ことかを考えると、その意味が理解で  
きます。

要するに、継続的に努力し、行動し続  
けることが、様々な可能性と出会う確  
率を高め、幸運にも出会うチャンスを  
増やすということです。

それは、「セレンディピティ」

(Serendipity) が示唆するように、目

指していた目的とは違う、副産物的な幸運であることが多いかも知れません。

108

He that would have eggs must endure the cackling of hens.

日本語訳

卵を得ようとする者は雌鶏の鳴き声に耐えなければならない。

何かを得るためには、多少の不快なことを我慢することが必要です。ましてや、卵を産んでくれる雌鶏の鳴き声には我慢しなければなりません。

同じ意味の、ネコが登場する諺「The cat would eat fish, but would not

wet her feet.」(魚を食べようとするネコは彼女の足をぬらさないわけにはいかない) があります。

109

Hope for the best and prepare for the worst.

日本語訳

最善を望み、最悪に備えよ。

日本の諺としても、上記の日本語訳がそのまま使われています。

最近では、組織のリーダーの心がけとして提唱されています。

標記が最も良く使われる表現ですが、多くのバリエーションがあります。

接続詞を「but」にした「Hope for the best, but prepare for the worst.」は、標記のものより後半を強調しています。

さらに、「Prepare for the worst, while hoping for the best.」と「prepare」を強調したものも見かけます。

110

He that would the daughter win, must with the mother first begin.

日本語訳

娘を得ようとする男は、最初に母親から始めよ。

具体的には、娘を妻として獲得したい男への助言ということですが。娘本人の心を掴むこと以上に、母親の賛同や協力が大きいということですが。

比喩的に使われる場合は、日本の諺「将を射んとすれば馬を射よ。」に対応します。

要は、最終的な目的を達成するために、そのことに絶大な影響力を持つキーマンに働きかける必要があるということです。

111

Bacchus has drowned more men than Neptune.

日本語訳

バッカスはネプチューンより多くの人間を溺れさせた。

日本でも「酒に溺れる」は日常的に使われる表現ですが、ローマ神話の二人の神々を引き合いに出しての諺は見事ですね。

ローマ神話において、バッカスは豊穡とブドウ酒の神とされ、お祭りの主賓とされています。

それに対して、ネプチューンはギリシヤ神話のポセイドンに当たる海神で、海で怒りを買うと命を奪われるとされています。

Discretion is the better part of  
valor.

日本語訳

慎重さは武勇におけるより良い部分で  
ある。

定訳として「用心深さは勇気の大半で  
ある。」というものがあります。

戦いに勝ち、生き残る者は、戦闘技術  
もさることながら、入念な準備をして、  
油断しない人です。

「Discretion」は、元は「判断・自由  
裁量」という意味ですが、ここでは  
「慎重さ」という意味で使われていま  
す。

「valor」は「戦いにおける勇気」とい

うニュアンスです。

因みにこの表現は、シェークスピアの戯曲「ヘンリー四世」にも使われています。

113

He travels fastest who travels alone.

日本語訳

独りで旅する者が最も速く旅する。

日本の常套句に「旅は道連れ世は情け」というものがありますが、旅は仲間によって楽しくなります。

英語の諺にも「No road is long with good company.」（良い仲間と一緒になら長い道のりなどない）があります。

標記の諺は全く逆の主張です。

つまり、ビジネスの旅行は、独りで機動的に行動できた方が良いということです。

因みに「旅は道連れ世は情け」は江戸時代の「東海道名所記」が出典のようです。

114

Hope is a good for the breakfast but a bad supper.

日本語訳

希望は朝食時には良いが、夕食時には良くない。

「パンドラの箱」の逸話にあるように、

「希望」は人間にとって、「生きる力」と同時に「努力を強制するもの」でもあり、功罪相半ばするものです。

この諺は、その日の始まりに意識すればやる気も起きるが、叶えられないまま日が終わっては、却って辛いという意味のようです。

「希望」を食物のように表現しているところが面白い点です。

115

Hunger is the best sauce.

日本語訳

空腹は最善のソースである。

日本にも、標記に近い「空腹にまずい

ものなし」という諺があります。

標記の諺の由来は、ローマ帝国時代の哲学者キケロの言葉とされています。説明するまでもありませんが、料理を美味しくするものがソースであり、西欧料理ではソース作りがシェフの真骨頂となります。

このことを前提として、料理自体の味や自慢のソースよりも、空腹であることが、料理を美味しく感じさせる力であるということでしょう。

116

Better late than never.

日本語訳

遅れてもないよりまし。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、リアクションがないことを責める「梨の礫（なしのつぶて）」という常套句があります。

標記は、様々な状況に使用可能な表現ですが、とりわけ謝罪に関しては、言いそびれたままにしないで、遅れても謝罪すべきでしょう。

因みに、「梨の礫（なしのつぶて）」は、礫（投げられた小石）が行ったきりで戻らないことから、「戻らないこと」を意味し、「梨」は「無し」の語呂合わせのようです。

117

A burnt child dreads fire.

## 二本掘訳

火傷した子どもは火を怖がる。

日本の諺としては、「糞に懲りて膾を吹く（あつものにこりてなますをふく）」が近いと言えますが、標記の諺の方が少し単純かも知れません。

同じように良くない経験をして、人によって、受け取り方が違います。

標記の諺も、正しく恐れるのであれば良いのですが、「糞に～」のように、火のメリットを活用できないのでは困ります。

日本語訳

恋と咳は隠せない。

「しのぶれど色に出にけり我が恋はものや思うと人の問うまで」、小倉百人一首にも選ばれている、平兼盛（たいらのかねもり）の歌です。

「love」は日本語の「恋」よりも広い概念のようですが、この諺では「恋愛」を意味しています。

隠せないものとして「a cough」を引き合いに出していますが、「a fire」、「an itch」（痒み）も代わりに使われるようです。

Husband is always the last to know.

日本語訳

夫はいつも知るのが最後である。

日本では「知らぬは亭主ばかりなり」という諺なのか常套句なのかがあります。

一番深刻なことは、妻が浮気しているのを、周りは知っているのに、夫は知らないという状況でしょう。

そうでなくても、妻が夫の知らないところで、犯罪に近いことや、隣人とのトラブルを起こしていることもあるでしょう。

「Husband」を「Wife」に代えた「Wife is always the last to know.」も使われるようです。

120

Hope springs eternal in the human  
breast.

日本語訳

人の胸には希望が無限に湧いてくる。

日本には諺ではありませんが、「希望を捨てるな」という常套句はあります。

標記の諺は、イギリスの詩人ポープの詩の一節のようですが、人間の性を言い当てているようです。

文中の「eternal」は、現在の文法では「eternally」が正しいのですが、200年以上前の詩では普通だったのかも知れません。

同じ内容を逆説的に表現した「If it were not for hope, the heart would break.」という諺もあります。

121

Bad money drives out good.

日本語訳

悪いお金は良いものを追い出す。

定訳は「悪貨は良貨を駆逐する。」です。経済学ではグレシャムの法則とされています。トーマス・グレシャムは 16 世紀イギリスの貿易商で、経済学成立以前の実務者でした。

当時、鑄造された貨幣は金や銀などの含有量により価値が異なり、同じ額面

の中で価値の高いものは退蔵され、質の低いものが流通しました。  
現在は、比喩として使うチャンスも少なく、蘊蓄の範疇でしょうか。

122

Do as I say, not as I do.

日本語訳

私のするようにではなく、言うようにしろ。

思わず笑ってしまう諺ですね。

自分の行動は模範にはならないことがわかっていて、親や教師が子供たちに諭している言葉です。

子供たちからの突っ込みとして、

「Practice what you preach.」（あなたが説教していることを実践しろ）があります。

「and」を挟んだ「Do as I say and not as I do.」も使われるようです。

123

He who excuses himself accuses himself.

日本語訳

自身の言い訳をする男は自身を告発している。

日本にはピッタリの諺が見当たりません。

そもそも、語幹の「cuse」がラテン語

由来の「罪」を意味し、「ex」で「外す」という意味を加えた言葉です。

また、「That's just an excuse.」（それは言い訳にすぎない）と使われるように、「excuse」はしっかりした「弁明」というニュアンスがないようです。

124

A bird in the hand is worth two in the bush.

日本語訳

手の中にある一羽の鳥は、藪の中の二羽の鳥の価値がある。

定訳は「掌中の一羽は藪中（そうちゅう）の二羽に値す」であり、図らずも

「掌中」と「藪中」が韻を踏んでいる  
点が面白いですね。

将来倍の量を獲得できる可能性がある  
としても、現在確実に自分のものである  
方が、価値があるということです。

同じ比率で「Take today's fifty  
instead of tomorrow's hundred.」(明  
日の 100 の代わりに今日の 50) という  
諺があります。

因みに、「鳥・1・2」を使った有名な  
諺「Kill two birds with one stone」  
(一石二鳥) がありますね。

125

A disease known is half cured.

日本語訳

知られた病気は半分治療済み。

診断され、病名が確定した病気は、深刻さも治療方法もわかるので、対応が可能です。

例えば、同じ脳疾患の場合でも、出血している場合と血栓による梗塞の場合とでは、動かすべきかどうか逆になります。

何よりも、病は気からとも言われるので、気分的に大きいと思います。

126

Bad news travels fast.

日本語訳

悪い知らせは速く旅する。

日本の諺としては「悪事千里を走る」がほぼ同じ意味で使われています。

一説によると、人が良い評判を聞いたときは2人に話し、悪い評判は7人に話すそうです。

その連鎖反応の結果は、数回ボタンタッチしただけで、何千倍も差がでることになります。

洋の東西を問わず、庶民はスキャンダルが好きということですね。

127

Do not cast your pearls before swine.

日本語訳

豚の前にあなたの真珠を投げるな。

日本の諺「猫に小判」に対応する諺です。

要は、ものの価値がわからない相手に、価値あるものを与えたり示したりしても意味がないということです。

由来は、新約聖書マタイ伝の一節に、「犬に聖なるものを与えるな。豚の前に真珠を投げるな。」とあり、後段が諺になったようです。

おそらく、人間の身近にいて、知性の劣るものの代表として豚が選ばれたと考えられます。

128

He fights and runs away, may live to fight another day.

日本語訳

戦って逃げるものは、生きて別の日に戦うだろう。

日本の諺としては「三十六計逃げるに如かず」があります。

古今東西の名将でも、局地戦においては多くの敗北を喫しています。つまり、そこで逃げ延びたからこそ、最終的に勝利したわけです。

因みに、「三十六計逃げるに如かず」は、中国の歴史書「南齊書・王敬則伝」が由来になっています。

129

A little learning is a dangerous

thing.

日本語訳

少ない学習は危険なものである。

日本の諺としては「生兵法は大怪我のもと」があります。

「生兵法は大怪我のもと」は、生半可な武術や戦略・戦術の学習では、実践に役立たないどころか、国を亡ぼすことにもなるという教えです。

標記の諺は、17 世紀のローマ教皇会アレクサンダー法王の言葉の翻訳とされています。

標記の諺は、一般的で、応用範囲が広いですね。

130

Better the foot slip than the tongue.

日本語訳

舌を滑らせるより足を滑らせた方が  
良い。

日本の諺としては「口は禍のもと」が  
あります。

標記の諺は、「足を滑らせること」と  
「舌を滑らせること」を対比して、後  
者の方がより良くないと主張していま  
す。

「舌を滑らせる」とは、不用意な発言  
や陰口を口にしてしまうことであり、  
その結果、自分自身を窮地に追い込む  
こととなります。

「foot」を「feet」に代えてもいいよ

うです。

131

If anything can go wrong, it will.

日本語訳

もし、何かがうまく行かないとしたら、  
そうなるだろう。

定訳は、「失敗する可能性のあるものは、  
失敗する。」です。

社会は皮肉な現象に満ちています。こ  
れらの現象をリスト化して「マーフィ  
ーの法則」が提唱されています。標記  
の諺はその一つです。

もう少し平たく言うと「そうなったら  
ヤダなと思っていることに限って、そ  
うなってしまう」ということです。

近い意味の日常生活的な諺として「The bread never falls but on its buttered side.」（パンが落ちる時は、バターを塗った面を下に落ちる）があります。

132

Do not spoil the ship for a ha'porth of tar.

日本語訳

半ペニーの（わずかな）タールを惜しんで、船をダメにするな。

日本の諺では「一文惜しみの百知らず」という江戸時代のものがあります。

「ha'porth」は「半ペニー」の古い表

現です。

船の養生として、板と板の間にタールを塗って浸水を防いでいました。そのためのタールを節約して、大きな損失をするなということです。

因みに、元々の諺は、「ship」ではなく「sheep」であり、羊の傷の化膿を止めるタールのことだったそうです。

133

He who hesitates is lost.

日本語訳

躊躇する者は負ける。

日本語の諺としては、ピッタリなものは見当たりませんが、近い意味の表現

は耳にしたような気がします。  
確かに、迷っているうちに機会を逸つ  
することは少なくありません。  
しかし、躊躇する場合はそれなりの理  
由があります  
例えば、バンジージャンプを強いられ  
たような状況は、安全だと言われても  
躊躇するものです。  
ある意味、この諺は、こちらの都合で、  
相手をけしかける場合に役に立つ諺カ  
も知れません。

134

God is for the battalions.

日本語訳

神は大勢に味方をする。

諺ではありませんが、日本語の常套句としては「多勢に無勢」というものがあります。

「battalion」は、日常会話ではほとんど登場しない、軍隊などの大隊、動物などの大群の意味です。

戦いや対決の際に、少数派に属する人が、諦めの言葉として、自分と仲間と言う言葉でしょうか。

説明するまでもなく、「for」は「～側の・～の味方の」という意味で使われています。

135

Goodness is not tied to greatness.

日本語訳

良いことは偉大さと結びついていない。

日本にはピッタリの諺は見当たりません。

要は、「good」と「great」の間には決定的な違いがあるということです。

標記の諺のルーツはギリシャの諺に由来するそうです。

同じ内容の諺や表現は以下のものがあります。

「Greatness and goodness go not always together.」(偉大さと良いことは一緒とは限らない。)、あるいは

「Goodness does not consist in greatness, but greatness in

goodness.」(良いことは偉大さの部分であるが、偉大さは良いことの部分で

はない。)

136

Be just before you are generous.

日本語訳

寛容である前に公正であれ。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

「just」は、「ちょうど・ほんの少し」という意味の副詞として知られていますが、名詞としては「公正・合法」という意味があります。

自身の行動として考えると、自分に甘くしないで、やるべき正しいことをしろ、ということになります。

最近の傾向としては、「just」が副詞として頻出することもあり、「正義」という意味では。「justice」が定番のようです。

137

Do not spur a willing horse.

日本語訳

やる気のある馬に拍車をかけるな。

日本にはピッタリな諺は見当たりません。

折角、自発的に勉強や仕事をしようとしている人に対して、必要のない言葉をかけてしまいがちですが、これは逆効果になります。

因みに、「horse」を含む有名な諺として「You can lead a horse to water but you can't make him drink.」(馬を水の所まで連れていっても水を飲ませることはできない。)があります。どちらも「馬の意思」に注目した諺ですね。

138

He who lives by the sword dies by the sword.

日本語訳

剣に生きる者は剣に死す。

宮本武蔵など日本の剣豪も、フランスの三銃士も、剣に命を懸けた人々でし

ようか。

より端的な「Lives by the sword, die by the sword.」という諺もあります。また、新約聖書にも「All they that take the sword shall perish by the sword.」（剣を手にするすべての者は剣により滅ばされるだろう。）の一節があります。

139

There's no such thing as a free lunch.

日本語訳

タダの昼食などというものはない。

日本の諺では、「只より高い物は無い」が近いでしょうか。

しかし、日本の諺は、恩恵を受けた場合に、それ以上の返礼をする日本の文化がベースにあります。

標記の諺は、より露骨に見返りを求められるということでしょう。

「There aren't no such thing as a free lunch.」もあり、文法的にはどちらが正しいのかわかりません。

また、「You don't get something for nothing.」と、標記の諺を説明するような諺もあります。

140

Great bodies move slowly.

日本語訳

大きな体はゆっくり動く。

日本の諺ではピッタリなものは見当たりませんが、「大男のしんがり」という表現があり、「大男は機敏でない」という常識があるようです。

物理学の法則から言えば、質量の大きな物を動かすにはより大きなエネルギーが必要であり、静止している大きな物体を加速させるのは容易ではありません。

例えとしては、政府や議会、あるいは大企業など、「図体の大きいものは動きが鈍い。」という脈絡で使われます。

141

Beauty is only skin-deep.

日本語訳

美しさは単に皮膚一枚の深さである。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。さらに言えば、この発想は日本的ではないかも知れません。

要は、表面的な見た目で物事を判断してはいけない、内面なり、本質を確認しなければならないということです。

標記の変化形として「Beauty is only but skin-deep.」「Beauty is but skin-deep.」があります。

142

Do not wear out your welcome.

日本語訳

あなたへの歓待をすり減らすな。

日本の諺としては、「客と白鷺は立っただが見事」というシャレたものがあります。

標記の諺の状況は、友人宅へ頻繁に訪問したり、回数は兎も角、なかなか帰らなかつたりして、初めの頃にあった歓待するマインドがなくなっていくことを言っています。

同じ意味で、「Fish and guests stink after three days.」（魚と客は三日で匂う。）という、あまり使われたくない諺もあります。

143

Grey and green make the worst medley.

日本語訳

灰色と緑は最悪の組み合わせを作る。

日本の諺には近いものも見当たりません。

「grey」は「頭髪に白髪交じりの男性」、

「green」は「若い女性」の暗喩です。

要は、年配の男性が若い女性を妻や愛人にしていることに対しての、羨望交じりの批判の意味を込めた諺と言えます。

昔は、借金のかたなどで、不本意に嫁がされることが少なくなかったと思われます。

144

He who begins many things, finishes

but few.

日本語訳

多くのことを始める男はほとんど終わらせない。

日本の諺では、「多芸は無芸」が近いかも知れませんが、これに対しては、「A Jack of all trades is a master of none.」という、より近い諺があります。あれもやりたい、これもやりたいと思う人は少なくありませんが、一般的には、「選択と集中」(choice and concentration)が良いとされています。「finishes but few」が諺らしい表現ですね。

145

If at first you don't succeed, try,  
try, try again.

日本語訳

もし最初に成功しなければ、何回もト  
ライしなさい。

日本の諺にはピッタリしたものが見当  
たりませんが、「七転び八起」が多少近  
いかも知れません。

標記の諺は、古典的な表現というより  
も、むしろ、若者に対して会話の中  
で言うべきものと言えます。

松下幸之助氏は、「何でも成功させた人  
です」と紹介され、「いえ、成功するま  
でやり続けただけです。」という趣旨を

述べたそうです。

146

The best doctors are Dr. Diet,  
Dr. Quiet, and Dr. Merryman.

日本語訳

最良の医者たちは、ドクター節制、ドクター安静、ドクター笑顔である。

ユーモアが溢れた、日本にはない発想の諺です。

キリスト教の「7つの大罪」の一つに「Gluttony」（大食）があります。つまり 2,000 年前から、健康を害するのは飽食であることが認識されていたわけです。

また、静かに体を休めることも、心が快活であることも重要であると考えられていたということです。

因みに、「Care killed the cat.」（心配がネコを殺した。）という諺もあります。

147

Time is a great healer.

日本語訳

時は偉大な治癒者である。

時が経てば、辛く悲しい体験の記憶も薄れてきます。そのことを「心の傷も癒える」と表現するわけです。

「Time is the great healer.」のように「a」ではなく、「the」でも良いよう

です。

因みに、同じ構文でずっしりと重たい諺として、「Death is the great leveler.」（死は偉大な公平者である。）があります。

因みに、文脈によっては、「Time works wonders.」（時は奇跡を起こす。）も同じ意味になります。

148

Gluttons dig their graves with their teeth.

日本語訳

大食漢は彼らの歯で彼らの墓を掘る。

「Gluttony」（大食）はキリスト教の「7つの大罪」の一つであり、「Glutton」は「大食漢」という意味になります。

要するに、食べ過ぎは成人病を引き起こし、寿命を縮める危険性があることを説いた諺です。

標記は、古い言葉が使われていて諺らしいと言えますが、「Great eaters dig their graves with their teeth.」とした方が誰にでもわかるでしょう。

149

If each would sweep before his own door, we should have a clean city.

日本語訳

もし、それぞれが自分のドアの前を掃いたら、私たちは清潔な街を得るだろう。

諺と言うよりも、牧師や神父、あるいは学校の校長がする説教の内容のようです。

確かに、少数の人たちが善行などをして、全体を変えることはできません。日本の街は、ごみの投げ捨てなどが無い、かなりクリーンな街ですが、実は、前回の 1964 年のオリンピックを契機に、このような文化が定着したと言われていいます。

標記の諺が実現した街と言えるかも知れません。

150

Grief is lessened when imparted to others.

日本語訳

悲しみは他人に話すと薄らぐ。

日本の諺では、「同病相哀れむ」が近いかも知れません。

「lessen」は、「less」（より少ない）が動詞になったものですが、「少なくなる・少なくする」という意味です。

因みに、「lesson」と発音は同じです。

「impart」は、「告げる・伝える」という意味ですが、頻出単語ではありません。

この原理は現在、カウンセリングや心療内科の治療としても、広く認識され

ています。

151

Better be the head of a dog than the tail of a lion.

日本語訳

ライオンの尻尾であるより、犬の頭である方がいい。

日本の諺では、故事成語である「鶏口牛後」、あるいは「鶏口となるも牛後となるなかれ。」に対応しています。

大きな組織の単なる一員でいるか、小さな組織でもリーダーでいるか、人生観の違いです。

大きな組織は、社会的な評価も、存続の継続性も担保されています。その代

わり、自分の意見や意思が反映されにくい。

小さな組織は、社会的評価は低く、安定性は欠けますが、リーダーであれば、決定する喜びがあります。

152

Doing nothing is doing ill.

日本語訳

何もしないことは悪いことをすることだ。

日本の諺としては、「小人閑居して不善をなす。」に近いでしょうが、少しニュアンスが違います。

何となくですが、標記の諺は「本人に

とって良くない」という感じがしますが、「小人閑居して～」は、「社会に対して良くないことをする」という意味です。

私は、この諺は、「貴重な人生を無為に過ごすべきではない」という温かい言葉だと思います。

153

If God did not exist, it would be necessary to invent Him.

日本語訳

もし神がいなかったら、創りだす必要があるだろう。

八百万（やおよろず）の神の国である

日本にはない発想の諺です。

「神を発明する」とは、キリスト教の文化においては不遜な言葉と言えます。因みにこの諺の成り立ちは 18 世紀フランスの思想家ヴォルテールの言葉の翻訳とされています。

因みに、神の代わりに、例えば「皇帝」や「予言者」を使う応用が効く表現です。

154

Ignorance of the law is no excuse for breaking it.

日本語訳

その法律を知らないことは違法行為の言い訳にはならない。

日本でも「悪法も法なり」と言う常套句はありますが、標記の諺とピッタリ一致しないと思います。

概ね、法律とは国が国民の行動を規制して、多くの場合、違法行為には罰則が課せられます。

その際に、そのような法律があることを知らなかったとしても、罰を免れることはできません。

ただし、知っていて敢えて違法行為を行った場合は、さらに罰が加算されることもあります。

155

Money does not grow on trees.

日本語訳

お金は木には生えない。

日本では、諺ではありませんが、常套句として「金の生る木」という言葉があります。

概ね、テレビドラマなどで、弱みを握られ恐喝される人が、恐喝者からそう言われます。

標記の諺は、「何の努力もしないで、財産は生み出せない」という意味であり、虫のいいことを考えている人たちへの叱責に使われます。

156

Better bend than break.

日本語訳

折れるより曲がる方がいい。

日本の諺としては、「風に柳」が近いでしょうか。

標記の諺の状況は、嵐の中の木々の中で、幹や枝が折れてしまうものも、撓って受け流しているものもあり、後者の方が良いということです。

「風に柳」は、まさに撓って、巧みに受け流している「bend」のケースと言えます。

なお、「柳に風」と、逆バージョンも同じ意味になります。

157

Don't bite off more than you can chew.

日本語訳

咀嚼できる以上を噛みちぎるな。

日本の諺ではピッタリのものはありませんが、「身の丈に合わせる」という常套句があります。

標記は、欲張って焦っていて、食べ物を噛み取りすぎている、ペットの犬や子どもに対しての言葉のようです。

このことを前提に、例えば、自分の能力以上に仕事を引き受けようとしている人に、先輩がアドバイスする諺と言えます。

158

If ifs and ands were pots and pans,

there'd be no work for tinkers' hands.

## 日本語訳

「もしも」や「仮に」が、（そこから中に  
ある）ポットや鍋のように（たくさん）  
あったら、鑄掛屋は商売にならない。

日本の諺にはピッタリのものはありません。

標記の諺は、かなり年代物の諺で、

「and」が古い使い方の「仮に」という  
意味であることを知らなければ、訳が  
わかりません。

「tinker」は「鑄掛屋」、つまり、金属  
製品などの修理をする職業であり、中  
世においてはエッセンシャルワーカー  
でした。

要は、「仮定の話ばかりするな」という意味で使われます。

因みに、マザーグースの歌にも入っているようです。

159

A golden key can open any door.

日本語訳

黄金の鍵はどのドアもあけられる。

日本の諺では、「地獄の沙汰も金次第」があります。

「お金の力」に関する諺はいくつかあり、最も端的で、説明の必要がない

「Money is power.」（金は力なり。）という諺もありますが、標記の諺の方が

洒落ています。

「A golden」ではなく、「Golden」でもいいようです。

言葉遊びとして、「Time is money is power.」という表現もあります。

160

The more you get, the more you want.

日本語訳

あなたは得れば得るほど、よりほしくなる。

諺とは言えませんが、日本の常套句として「欲望に頂なし」があります。

「No pain no gain.」のように、苦勞し

て手に入れた物は価値がありますが、簡単に手に入れた物に対しては、いわゆるリスペクトがありません。

標記の諺のような状況になるのは、ある意味、人間の性かも知れません。

「The more you have, the more you want.」も使われています。

161

Better to ask the way than go astray.

日本語訳

迷子になるより、道を尋ねた方がいい。

日本の諺、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」に対応します。

標記の諺は、具体的に道を聞くことを

意味していますが、日本の諺は、必ずしも道ではなく、様々な分野の知識に関することに使うことができます。

「astray」は「道に迷って・道を踏みはずして」という意味で、「go astray」で「道に迷う」という意味になります。

162

Don't bite the hand that feeds you.

日本語訳

あなたに餌をくれる手に噛みつくな。

日本の常套句に「恩をあだで返す」がありますが、「恩をあだで返すな」とすると、標記の諺に対応した表現になり

ます。

状況としては、「飼い犬に手を噛まれる」ということですが、標記の諺は、この時に犬を叱る言葉と言えます。

ビジネスの場面では、「多少不平があっても、社長の悪口を言うな」という状況で使える諺です。

163

Home is home though it's never so homely.

日本語訳

それほど家庭的でなかったとしても、ホームはホームである。

日本で古くから親しまれている「埴生の宿」という曲の冒頭に「埴生の宿も我が宿」という一節があり、標記の諺はまさにこのことを表現しています。

それもそのはず、原曲はイギリスの「Home sweet home」だからです。

仕事や旅行で長いこと自宅を離れ、疲れて帰ってきた時には「やっぱり家が一番！」と思いますよね。

因みに、「埴生（はにゆう）の宿」とは、「粘土性の土の文語的表現」で、「みすぼらしい家」のことです。

164

If you can't beat them, join them.

日本語訳

もし、彼らを打ちのめせないならば、  
彼らに参加してしまえ。

ここまでの発想の転換は、日本の諺には見当たりません。

「柳に風」に近い「Better bend than break.」という諺はありますが、これは、「ある程度の妥協をしろ」ということであり、「勝てないならば仲間になれ。」とまでは意味していません。

まあ、「味方にすれば、心強いが、敵にしたら手ごわい。」という考えは納得がいくものです。

165

Morning dreams come true.

日本語訳

朝の夢はかなう。

日本の諺にピッタリなものは見当たりません。それどころか、「夢」を含む諺も「一睡の夢」しか思い浮かびません。

「一炊の夢」はご自身で調べていただくことにして、標記の諺の意味を考えてみたいと思います。

これはイギリス由来の考えではなく、ローマ時代からの俗信のようです。

因みに、夢に関しては、「Dreams go by contraries.」（夢は逆夢になる。）という諺もあります。

166

Beware of Greeks bearing gifts.

日本語訳

贈り物を持ってくるギリシャ人には気をつけろ。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

標記は、「トロイの木馬」を和平のための贈り物に見せかけたことに由来し、友好的な態度で近づいてくる人々の真の狙いや下心に注意が必要であるという意味になります。

「Greeks bearing gifts」（贈り物をするギリシャ人）だけでも使われ、また、「Fear the Greeks bearing gifts.」（贈り物をするギリシャ人を恐れよ。）というバリエーションもあります。

167

Don't cross the bridge till you come to it.

日本語訳

橋にくるまで橋を渡るな。

日本の場合、諺ではなく、「杞憂」という故事成語に対応した考え方と言えます。

「Hope for the best, prepare for the worst.」(最善を望み最悪に備えよ。)

を心がけるとしても、あまりに多くの労力を「prepare for the worst」に費やすことは無駄です。

標記の諺は少し婉曲ですが、「Never trouble troubles till trouble

troubles you. 」 や 「 Never meet trouble half-way. 」 というわかりやすい諺もあります。

168

If you can't bite, never show your teeth.

日本語訳

噛みつくことができないなら、決して歯を見せるな。

日本の諺にはピッタリのものはありません。

説明するまでもなく「bite」からわかるように、犬を想定した諺です。

犬が敵意を示す際、上唇を上げて歯を

剥き出しにします。このことは相手に敵意を気付かせることになります。

標記の諺は、相手に打撃を与えることができないのならば、敵意を示すことをさける、ということの意味しています。

169

A mouse may help a lion.

日本語訳

ネズミがライオンを助けるかも知れない。

これは、イソップ寓話が元になっていて、日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

この寓話の概要は以下のようです。  
ライオンの機嫌を損ねたネズミが命乞いをして、許してもらい、「いつか役に立つこと」を約束する。ライオンはネズミを馬鹿にして本気にしない。後日、獵師の罠にかかったライオンをネズミが助けるというものです。  
要は、能力の低い者でも役に立つことがあることの例えです。

170

Honesty is the best policy.

日本語訳

正直は最善の策である。

標記の翻訳である「正直は最善の策」

は、すでに日本の諺でもあると言えます。

自分のミスも含めて、いわゆるマイナス情報を隠すことなく、関係者に開示することは、トラブルを小さく収めることになります。

そうは言っても、相手への悪口を正直に話してしまう必要はありません。

因みに、「Cheats never prosper.」（だましは栄えない。）という諺もあります。

171

Birds of a feather flock together.

日本語訳

同じ羽の鳥は集まる。

日本の諺「類は友を呼ぶ」に対応しています。

「flock」は名詞としては、「群れ・集団」、時には「羊の群れ」と限定した群れを意味します。

標記の諺では、「flock」は動詞として、「群れをなす」という意味で使われています。

また、この諺の中の冠詞「a」は単なる「一つの」ではなく「same」の意味で使われています。

172

Don't halloo till you are out of the woods.

日本語訳

あなたが森から出るまでは叫ぶな。

少しニュアンスが違いますが、日本の諺「百里を行く者は九十里を半ばとす。」に対応します。

標記の諺は、自分の位置がわからない、不安で危険な状態にあることを「森の中にいること」として、そこから脱したことを「out of the woods」と表現しています。

少し視界が開けて、森を抜けたと思っても、それは小さな草地だったということもあります。

確実になるまで、「歓声をあげるな」ということです。

Nothing is new under the sun.

日本語訳

太陽の下では新しいものはない。

日本の諺ではピッタリのものは見当たりませんが、芥川龍之介の「侏儒の言葉」に「人類に必要な思想は三千年前に尽きている」という一節があったことを思い出しました。

「There is nothing new under the sun.」という変化形もあり、この方が、文法的には整っています。

使われる文脈によっては、改革に対するネガティブな態度の表明になります。

If you can't stand the heat, get out of the kitchen.

日本語訳

あなたがその熱に耐えられないならば、台所から出ていけ。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

料理は炒めたり、焼いたり、油で揚げたり、加熱処理をすることが多いので、台所は熱気が充満します。

それを覚悟して働かないといけないのに、弱音や不平不満を吐露する者に対しての叱責と言えます。

最近では、あまり強く指導して自殺や事故を招かないように、台所から出ることも必要だと思います。

175

Money is the root of all evil.

日本語訳

お金は全ての悪の根源である。

日本では、「金の亡者」「金の切れ目が縁の切れ目」などの常套句がありますが、標記にピッタリの諺は見当たりません。

価値尺度として、価値交換の機能を果たす「money」は、いつしかそれ自体を得ることが目的になってしまいました。新約聖書には、「The love of money is the root of all evil.」という、ほぼ同じ意味の一節があります。

176

Blessed is he who expects nothing,  
for he shall never be disappointed.

日本語訳

決して失望することがないであろうため、何も望まない者は祝福される。

古今東西、多くの人が同じような趣旨のことを発言、または著述していると思いますが、標記の諺は、18 世紀に活躍したイギリスの詩人、アレキサンダー・ポープ（Alexander Pope）の言葉です。

因みに、ポープの最も有名な言葉として「To err is human, to forgive,

divine.」(失敗するは人間なり、それを寛容するは神なり。)があります。

177

Don't look a gift horse in the mouth.

日本語訳

贈り物の馬の口の中を見るな。

日本の諺としては、あまり耳にしません。「貰いものに苦情」というものがあります。

標記の諺の背景は、馬の口の中を見ると年齢や健康状態がわかるので、馬を知る者はそうするそうです。

少なくとも、贈り主の目の前で値踏みするようなことは避けるべきであると

ということです。

標記の諺より強い表現として「Beggars cannot be choosers.」（乞食は選ぶ立場にない。）があります。

178

If you don't make mistakes you don't make anything.

日本語訳

もし、あなたが間違いをしなかったら、何もしていないからだ。

日本の諺としてはピッタリのものはありません。

逆説的な諺としては、「失敗は成功の基」がありますが、これは英語の諺として、「Failure teaches success.」（失敗は

成功を教える。)の方が近いと思います。

「He who makes no mistakes makes nothing.」という変化形の諺もあります。

179

Money makes a man.

日本語訳

お金は男（人）を作る。

日本の諺としては、「恒産無くして恒心無し。」、「衣食住足りて、礼節を知る。」が近いと思われます。

清貧の思想もありますが、衣食住にそれなりの支出が出来て、趣味や社会貢献にもお金がかけられれば、人から尊

敬される人にもなれます。

勿論、飲む打つ買うという愚かなお金の使い方もあるので、逆の意味でも「人を作る」と言えるかも知れません。

180

Hoist your sail when the wind is fair.

日本語訳

順風の際にあなたの帆を上げなさい。

日本の常套句では「天の時」でしょうか。

因みに、この「天の時」は単独で使われることは少なく、「天の時、地の利、人の和」のセットで使われています。

似た意味の英語の諺として、「Strike

while the iron is hot.」(鉄は熱いうちに打て。)、*「Make hay while the sun shines.」*(日のあるうちに干し草を作れ。)があります。

181

*Blood is thicker than water.*

日本語訳

血は水よりも濃い。

「血は水よりも濃い」は、日本の諺として認識されていますが、どうも標記の諺の翻訳のようです。

要するに、究めて親しい他人よりも、血縁関係にある者同士の関係を優先させる傾向は、洋の東西を問わないようです。

説明するまでもなく、血液には様々な成分が含まれているので、この諺は実感そのものです。

182

Don't put all your eggs in one basket.

日本語訳

あなたのすべての卵を一つの籠に入れてはいけない。

このリスク分散の原理を盛り込んだ、ピッタリの日本の諺は見当たりません。入れてはいけない理由は、落したり、大きな衝撃を受けた場合、すべての卵が割れてしまうからです。

因みに、アメリカ大統領と副大統領は、

同時に同じ飛行機には乗らないことになっているそうです。

標記の中の「your」はなくてもいいようです。

183

A heavy purse makes a light heart.

日本語訳

重い財布は軽い心を作る。

日本では「財布の口が堅い」というような慣用句はありますが、標記の諺に対応したものは見当たりません。

標記の諺は、お金に関するものですが、「恒産無くして恒心無し」ほど重要な真理を意味したものではなく、日常生

活の一場面と言えます。

「heavy」と「light」の対比がポイントですが、これを逆にしたパロディとして「A light purse makes a heavy heart.」も使えそうです。

184

Money makes the mare to go.

日本語訳

お金は雌馬も行かせることができる。

日本の諺として、意味合いが同じものは、「地獄の沙汰も金次第」ということでしょうか。

標記の「mare」は「雌馬」のことで、牡馬よりも扱いにくく、機嫌が悪いと

立ち止まったりするようです。  
つまり、馬にお金の意味がわかるはず  
はないわけですが、「万事金の世の中」  
という例えに使われます。  
現在の文法では、「Money makes the  
mare go.」になります。

185

The truth will out.

日本語訳

真実は明るみになる。

日本の諺としては、「天網恢恢疎にして  
漏らさず」、あるいは古いものとして、  
「お天道さまはお見通し」に通じると  
思われます。

標記中の「out」は、「～に知られる・公になる」という意味の動詞です。

「will out」が使われる別の諺として「Murder will out.」（殺人は発覚する。）がありますが、反社会的勢力や警察・司法関係者で語られるような諺は、日本では見当たりません。

186

God sends meat, but the devil sends cooks.

日本語訳

神が肉（食材）を送るが、悪魔が料理人を送る。

要は食材が良くても、調理の腕が悪け

れば、できた料理はおいしくないという意味です。

中世以前からの諺であり、「meat」が「肉」だけでなく、「food」全般を意味しています。

結論から言えば、「材料はいいのに、料理の腕がだめだ。」と、料理した人を揶揄する際に使われます。

二度と作ってくれなくなるかも知れないので、の諺を使う時は注意が必要です。

187

Don't put the cart before the horse.

日本語訳

馬の前に荷車をつけるな。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、常套句としては「本末転倒」が当てはまります。

時として、急ぎ慌てていたり、物事を知らない人は、本来の手順を踏まないで、失敗をしてしまいがちです。

「to put the cart before the horse」は「物事の順序を間違えること」の意味になります。

188

Help you to salt, help you to sorrow.

日本語訳

塩は自分でかけ、自分で嘆きなさい。

日本とは文化や風習が違うので、その背景を知らないと皆目わかりません。

先ず、塩は生命にとって、欠くことのできない物であり、貴重で神聖なものとして認識されています。この点は、洋の東西を問いません。

違いとしては、西洋の食文化において、食事の時には、塩加減は自身で調整するものであり、多寡は自己責任です。

189

Nature abhors vacuum.

日本語訳

自然は真空を嫌う。

この諺は、ある意味、物理法則であり、

日本には近いものも見当たりません。  
自然界には、空きスペースがあると、  
すぐに何かの物質がそこを埋めるとい  
う傾向があります。  
これは、古代ギリシャのアリストテレ  
スまで遡れる考え方とされています。  
現在のエントロピーの法則にも通じる  
考え方ですね。

「Nature abhors a vacuum.」と冠詞が  
入った表記もあります。

190

Necessity is the mother of invention.

日本語訳

必要は発明の母である。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺は、ラテン語に起原があるようで、イギリスでは、15 世紀になって、イートン高校の学長で、ギリシャ語・ラテン語学者、ウィリアム・ホーマン（William Horman）の著作に登場したと言われていています。

究めて近い諺として、「Want is the mother of industry.」

（不足は勤勉の母である）があります。

191

Brevity is the soul of wit.

日本語訳

簡潔さは機知の魂である。

日本の諺には、ピッタリのものが見当たりません。

確かに、ユーモアや冗談は、一瞬で理解できて、思わず拍手してしまうようでないといけません。

後から説明が必要なものは出来が悪いと言わざるを得ません。

もっとも、高度なシャレでも相手の教養が足りなければ機能しないことになります。

「人を見て法を説け」ということも合わせて考える必要があります。

192

Don't quarrel with your bread and butter.

日本語訳

自分の飯の種と喧嘩するな。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、「短気は損気」に含まれる教訓と言えます。

標記の諺は、我慢すればよいものを自分の職を失うような喧嘩をするな」ということです。

「bread and butter」は、日本語訳に示したように、「飯の種」のシンボルとして登場しています。

「飯の種」を大切にしろという意味の諺として、「Keep your shop and your shop will keep you.」（あなたの店を維持すれば、店があなたを維持する。）があります。

193

He who would climb the ladder must begin at the bottom.

日本語訳

梯子を上ろうとする者は、底から始めなければならない。

日本の諺としては、「千里の道も一歩から」が近いでしょうが、標記の諺は、適切な手順を飛ばして物事を進めてはいけないという意味ですから、かなりニュアンスが違います。

因みに、「千里の道も一歩から」を正確に訳すと、「A journey of a thousand miles begins with a single step.」と

いうことになります。

194

If you play with fire you get burnt.

日本語訳

あなたが火で遊ぶと焼けどする。

日本の諺にはピッタリのものはありませんが、「危ない事は怪我の内」という、標記を含む諺があります。

ギリシャ神話によると、火はプロメテウスが人類にもたらした知恵であり、文明の始まりを告げたものでした。

圧倒的に便利でありながら、使い方を間違えると、極めて危険なものです。

それ故危険なものの象徴として認識され、「You' re playing with fire.」は「ヤバいことになるよ」という意味になります。

同様の意味の諺として「It is ill jesting with edged tools.」(刃物で悪ふざけはよくない。)があります。

195

Don't wash your dirty linen in public.

日本語訳

汚れたシーツを人前で洗うな。

日本の諺にはピッタリのものは身当たりませんが、同じ感覚はあると思います

す。

要は、自らの恥、あるいはプライバシーや秘密を人前にあえてさらす必要はないということです。

この諺は、先行してフランスに存在し、イギリスでは 19 世紀に登場したようです。

それではどこで洗うべきかの答えとして「Wash your dirty linen at home.」（汚れたシーツは家で洗え。）という諺もあります。

196

Never ask pardon before you are accused.

日本語訳

糾弾される前に、許しを求めるな。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、近いものとして「毛を吹いて傷を求む」や「寝た子を起こす」があります。

「Honesty is the best policy.」（正直は最善の策）という考え方もありますが、標記の状況は、失敗や後ろめたいことがあっても、あえて自分から白状する必要はないということです。

197

Health is better than wealth.

日本語訳

健康は富に勝る。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりません。

まあ、「亭主元気で留守がいい」という、思わず笑ってしまう諺はあります。

「health」が含まれる他の諺としては「Health is first.」（健康が一番）や「Health is not valued till sickness comes.」（病気が来るまで健康の価値は計れない。）などがあります。

蛇足ですが、「Health is the best wealth.」もありですね。

198

Necessity knows no laws.

日本語訳

必要は法律を知らない。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、要は「緊急避難」のことでしょうか。

「レミゼラブル」のジャンバルジャンではありませんが、お金がなく、飢え死にしそうであれば、法律違反であるかを考えることなく、食べ物を盗んでしまうことは起こりえることです。

因みに、「Necessity has no law.」も使われます。

199

Dreams go by contraries.

日本語訳

夢は逆になる。

日本では、諺ではありませんが、「夢は逆夢」という常套句があります。

精神分析の祖ジグムント・フロイトによると、夢は「無意識」に関係し、その人の願望を意味しているとされています。

しかし、願望であるということは、実現しないことの不安を意味していることともあり、現実に逆の結果が起こるわけです。

200

Heaven protects children, sailors  
and drunken men.

日本語訳

天は子どもと水夫と酔っ払いを守る。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりませんが、「sailors」を除いては、経験則として頷けるものがあります。

子どもは、危険な所で遊び、見ている方がはらはらしてしまうものですが、不思議にも切り抜けたり、ケガをしても軽傷だったりします。

酔っ払いも、落ちそうな所でも持ち直したり、交通事故も回避したりしています。

標記の諺は、神の加護があるように見えるということです。

「Heaven protects children, and drunken men.」も使われます。